

様式3 まとめ(自己評価および学校関係者評価)

坂戸市学校評価システム

令和元年度 学校評価 自己評価及び学校関係者評価

学校名	坂戸市立坂戸小学校
実施日	令和2年2月7日

○「自己評価」及び「学校関係者評価委員評価」の欄には、A～Dを記入してください。

評価 A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない

○「自己評価についての評価の説明及び学校の考え」の欄には、理由及び自己評価の結果をどのように受け止めているかを記入ください。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
組織・運営	1	学校は、特色ある学校づくりを目指し、組織的・計画的に取り組んでいる。	B	<ul style="list-style-type: none"> 特色ある学校づくりのために、概ね組織的・計画的に取り組むことができているが、校務分掌組織の更なる機能化を図りたい。 取組内容についての保護者全体への情報提供を含め事前に準備すべき内容について今後も丁寧に行いたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校だよりに活動の内容が掲載されており、取組の様子やその反応などを知ることができた。 学校の特色のために具体的な目標をもちたい。あいさつ運動がよいのではないかな。
	2	学校は、災害、事故やトラブルに対して、組織的に迅速に対応している。	A	<ul style="list-style-type: none"> 事故やトラブル等に対しては、「一人で抱え込まない」という雰囲気での組織的な対応、全教職員での情報共有がされているとともに予防的対応についても組織的に対応できている。 避難訓練等においては、安全部を中心に、めあてをもって取り組んでいる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練等があらゆる場面を想定し、多岐にわたって実施している様子がうかがえる。 トラブル等に対して、組織的に対応できている様子がうかがえる。
	3	学校は、働き方改革を意識して、職員の勤務体制の改善を図っている。(共通項目)	B	<ul style="list-style-type: none"> 勤務時間内に業務を終わらせることには、厳しい現状がある。 行事の精選や内容の見直し、出退勤管理、定時退勤日の設定、電子化等に取りかかり、勤務体制の工夫改善を推進している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 社会の学校に対する要望が多く、そのすべてに対応しようとすれば時間不足は否めない。職員一同が学校本来の目的を共有して業務の簡素化を図り時間短縮にあたってほしい。
教育課程・学習	4	教員は、学力向上に向け、児童生徒にわかりやすく、工夫した授業をしている。(市共通項目)	B	<ul style="list-style-type: none"> 研究推進委員会を中心として学校研究に臨み、「学び合い」の方法について、共有することができた。 児童一人一人に寄り添った授業を推進していくためには、日頃から教職員相互が授業を見合い、指導力向上に努める必要がある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 計画的に研究授業が実施されていて、指導力向上を目指している様子が伺える。 教職員相互が授業を見合い、更なる指導力向上を目指したい。
	5	教員は、豊かな心を育む授業の充実を図っている。	B	<ul style="list-style-type: none"> 温かな人間関係づくりを基盤とした学級経営をはじめ、学校行事や特別活動と関連させながら、豊かな心を育む授業を実践している。 道徳における指導方法と評価について、今後も研修を深める必要がある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 運動会などの行事では児童が主体となり意欲的に活動する姿から生活が充実していることがうかがえる。 児童の誤答等に対しても肯定的な言葉がけが出来ている場面がみられる。
	6	児童生徒は、落ち着いた態度で生活し、授業に取り組んでいる。(市共通項目)	B	<ul style="list-style-type: none"> 教職員自身が児童の手本として、挨拶や言葉遣い、児童への接し方等に気を付けていく必要がある。 挨拶は、改善がみられるものの、本校の一番の課題でもあるので、引き続き全校児童で取り組める活動を考えていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度がよく、日頃の指導の積み重ねが感じられる。 児童の集中力について差がみられる。授業の展開について研修を積んでほしい。 宿題、自主学習については家庭との連携が必要である。家庭との連携について研究してほしい。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
資質の向上	7	学校は、体罰や交通事故等の教職員事故や不祥事根絶のために意欲的に取り組んでいる。 (市共通項目)	A	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理確立委員会の委員が交替で、毎月のチェックシート・関連資料を作成、配布、説明等を行ってきた。教職員間で日々の言動を振り返り、不祥事防止に取り組むことができた。 ・月に一度、テーマをしぼって考える時間を設定できたことで、意欲的に取り組むことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞・雑誌などの関連記事を配布して倫理の向上を図っている様子が伺える。今後も継続してほしい。
	8	本校の教員は、児童生徒一人一人を認め大切にできる態度で接している。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学年を問わず多くの教職員が連携し指導を行い、児童に寄り添った指導ができています。 ・児童一人一人の違いを認め、大切にすることはできていますが、様々なニーズに対応するため、今後もさらなる保護者や関係機関との連携が必要である。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中でよいノート作りを紹介するなど一人一人を大切にしている様子がうかがえる。 ・学校生活に不安があるが、相談できない児童もいる。教職員から声をかけてほしい。
学習環境	9	学校は、特別支援教育体制の充実を図っている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中の特別支援教育研修は、有意義であった。今後も特別支援教育の研修の機会を設定していく。 ・教室掲示をはじめ、あらゆる場面においてユニバーサルデザインの考え方を取り入れ、誰もが安心して学校生活を送れるよう取り組む必要がある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・支援員を配置し、丁寧な援助に努めている様子が伺える。 ・今後も個に合った指導が充実できるように研修を研修してもらいたい。
	10	学校は、安心安全で機能的な教育環境整備に努めている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検での危険箇所を把握⇒報告⇒対応検討⇒修繕への流れが確立し、教育環境が整備されてきた。 ・短時間で効率よく清掃ができる「黙働清掃」推進のために、教職員自身も手本を示す、声掛けを行うことが重要であり、児童の成長にも大切である。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教室や廊下などの展示物が以前より整理されていて教室環境がよくなったと感じる。 ・教材教具が整理整頓されていて使いやすい環境づくりが図られている。
家庭・地域との連携	11	学校は開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っている。 (市共通項目)	B	<ul style="list-style-type: none"> ・マメールの活用により、防犯やボランティア募集等、迅速に情報を家庭に提供することができた。 ・今後も学校だよりや学校ホームページを活用し、学校での児童の様子等を家庭・地域に提供し、開かれた学校づくりをさらに推進したい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・マメールを活用した連絡・情報公開は効果的である。
	12	学校は、積極的に地域の人材を教育活動に活用し、家庭・地域と連携し子どもの問題解決を図っている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーを招いての学習は、児童の興味・関心を引き付け、理解を深めることにもつながるので、今後も継続して実施していく。 ・登下校についても、交通指導員さん・PTAや地域の方々の協力をいただきながらできている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・むかしの遊びなど地域の財産活用に努めていて頼もしい。 ・今後もいろいろな人材を活用し、家庭・地域と連携が図れるとよい。
小中一貫教育	13	学校は、小中一貫教育の視点にたった教育活動を推進している。 (市共通項目)	B	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育の視点に立った教育活動については、前進している。今後も坂小⇄坂中相互の連携を緊密化させていくために、改善策について早急に検討していく。 ・小中の情報交換会についても目指すべき姿を明確にして、成果を指導に生かすようにしたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育は、まず教職員の相互理解を進め、具体的な活動を実践してほしい。